

MIS導入事例

ムサシ『M BOOSTER』

糸川印刷（東京都）

基幹システムの故障を救う

カスタマイズなしで即立ち上げ

超アナログ作業の1ヵ月

約1年前の2016年11月、株式会社糸川印刷（東京都文京区／高尾野 健社長）は基幹システムの故障というトラブルに遭った。約1ヵ月の間、請求業務、作業指示業務は手作業が強いられただけでなく、顧客情報が一気に失われた。通常、新たに基幹システムを導入しようとするれば相応の時間が必要とされ、混乱が長引く恐れもあった。このトラブルを短期間で終息させたのが、ムサシの印刷業総合業務管理システム『M BOOSTER』である。導入後まもなく動きはじめ、しばらくすると同社の業務は平時に戻っていった。

同社は1954年に設立。もともと出版会社を対象に頁物印刷を受注していたが、主要顧客の喪失をきっかけに、15年間に菊半裁4色機を導入して商業印刷の領域に進出した。CTPの導入も早く、社内の効率化と新規顧客開拓を同時に推し進めて変革していった。現在では名刺から封筒、チラシ、CD／DVDまでを請け負う総合印刷会社に変貌。デザインから印刷までの一貫生産体制を整えている。

現在の従業員は16名。顧客数、売上ともに伸びている元気な中小印刷会社である。その強みはスピード。短納期の案件が多く、朝に電話がかかり、午後に納品という要望にも応えている。このスタンスは昔からの売りだという。

そうした繁忙な業務を支えていたのは大手計算機メーカーの基幹システム。約12年前に導入し、販売管理と作業指示書の出力の用途で使っていた。ところが昨年10月に起動しなくなり、データも救

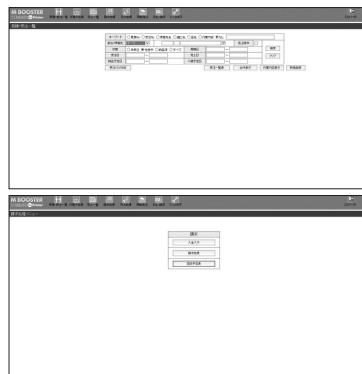


山口義貴部長代理(右)と土橋氏

出できない状態に陥った。

同社営業部部長代理の山口義貴氏は「調子が悪い段階でメーカーに聞いたところ、修理や新規購入にも結構な金額が見積もられました。基幹システムは高価なのでギリギリまで使おうということだったので……」と振り返る。故障後の1ヵ月はエクセルでの販売管理。同社室長の土橋美貴氏は「超アナログの業務を強いられましたね。短納期でスピードが求められ、しかもスケジュールが頻繁に変わります。この間、本当に大変でした」と述べ、作業指示もままならなかったという。

基幹システムが不調との相談を受けた印刷商社のショーワは不測の事態に備えて事前に業務内容をヒアリングし、M BOOSTERのデモを実施していた。Webブラウザで運用できるため、複数のクライアントPCを使う同社に最適であるとショーワの営業担当者が判断。これが後のトラブルを短期間で終息させることになる。そして、いよいよ基幹システムが動かなくなり、「時間がなかったので即決」（山口氏）でM BOOSTERを導入した。



M BOOSTERの画面

M BOOSTERに業務を合わせる

以前の基幹システムはクライアントPCが3台。新規購入や修理で高額になるのはそれぞれにライセンス料が発生するからである。M BOOSTERは導入後、クライアントPCごとのライセンスが発生しない。IDとパスワードの管理によりWebブラウザから複数のPCからアクセスし、利用することができる。M BOOSTER導入前は3台のクライアントPCに、利用者が4名。1台が経理部門で利用するため、3名が所属する営業部門では1台足りなくなる。このため、作業が集中すると、1人がクライアントPCの空きを待つこともあった。見積り機能もないので、販売管理用のPCと、見積り等の営業事務用のPCが必要だった。M BOOSTERでは見積り機能が搭載されているため、PC 1台で営業事務もこなせるようになった。

12年前の古いシステムでは、データが蓄積されるにつれて、検索速度が落ち込んでいた。「増刷の依頼があって、過去の仕様を引き出すのに待ち時間がすごくストレスでした。品名の頭文字からでしか検索ができなかったので、M BOOSTERに変えてから作業が早くなりました」(土橋氏)

導入に当たってはカスタマイズが一切なかった。帳票もそのままM BOOSTERのスタンダードな仕様で、変更したのは帳票名だけだった。緊急事態だったため、当初は標準的な機能でスタートし、必要なケースが生じた場合にカスタマイズする予定だったが、1年経った現在も導入時の仕様から全く変えていない。「M BOOSTERに業務を合わ



導入後、すぐに立ち上がったM BOOSTER

せようという発想です。前の基幹システムよりも良いことが増えているので、不満は全くないですね」(山口氏)と業務への不具合はない。

基幹システムが故障し、過去のデータが失われたことでこの1年は増刷時に苦労した。「今では過去に何を受注したかもわかりません。請求書の控えしか残っていないのですから。M BOOSTERを導入してから1年が経過し、これからはもっと楽になると思います」(山口氏)と期待を寄せる。

現在、週2日勤務の土橋氏は、出社しない日に育児をしながら在宅勤務を続けている。M BOOSTERを利用し、自宅で受注した内容を入力して作業指示書を制作している。作業指示書は社内の人員が出力し、現場に届けている。山口氏は「土橋が自宅から“これ、請求が入力されていませんよ”と、連絡してくれることがあります。家でもしっかり見てくれていて助かっています」と述べ、「M BOOSTERの機能の多くを使っていない状態です。もっと活用できればさらなる業務改善につながると思います」と見据えている。

株式会社糸川印刷

東京都文京区大塚6-9-7

TEL 03-3943-9811

<http://www.kumekawa.jp>

株式会社ムサシ

TEL 03-3546-7717

<http://www.musashinet.co.jp>

<http://www.musashinet.co.jp/print634> (印刷業界用サイト)